

音 樂 夜 話 (I)

オ ー ケ ス ト ラ 編

2 0 1 4 . 6 . 1 2 .

3 3 織維卒 穴 原 明 司

バッハ

ハイドン

モーツァルト

ベートーヴェン

ベルリオーズ

ブラームス

- 1 7 7 2 . ハイドン 交響曲第4 5 番「告別」
1 7 8 8 . モーツァルト 交響曲第4 1 番「ジュピター」
1 7 9 5 . ハイドン 交響曲第1 0 4 番「ロンドン」
1 8 0 8 . ベートーヴェン 交響曲第5 番「運命」
1 8 2 4 . ベートーヴェン 交響曲第9 番「合唱付」
1 8 2 6 . シューベルト 交響曲第9 番「グレイト」
1 8 2 9 . ロッシーニ 歌劇「ウィリアムテル」
1 8 3 0 . ヘルリオース 幻想交響曲
1 8 4 5 . ヴァーグナー 楽劇「ローエングリン」
1 8 5 0 . シューマン 交響曲第3 番「ライン」
1 8 5 8 . オッフェンバック 歌劇「天国と地獄」
1 8 6 2 . ヴェルディ 歌劇「運命の力」
1 8 7 6 . ブラームス作曲 交響曲第1 番

目 次

- 1 . オーケストラの語源
- 2 . オーケストラ成立までの歴史
 - 2 - 1 . 記譜の歴史
 - 2 - 2 . 楽曲の歴史
 - 2 - 3 . 楽器の歴史
 - 2 - 4 . 弦楽器の活躍
- 3 . オーケストラとは
- 4 . 指揮者
- 5 . 作曲家
- 6 . オーケストラの楽器編成
- 7 . 交響曲の構成

1. オークストラの語源

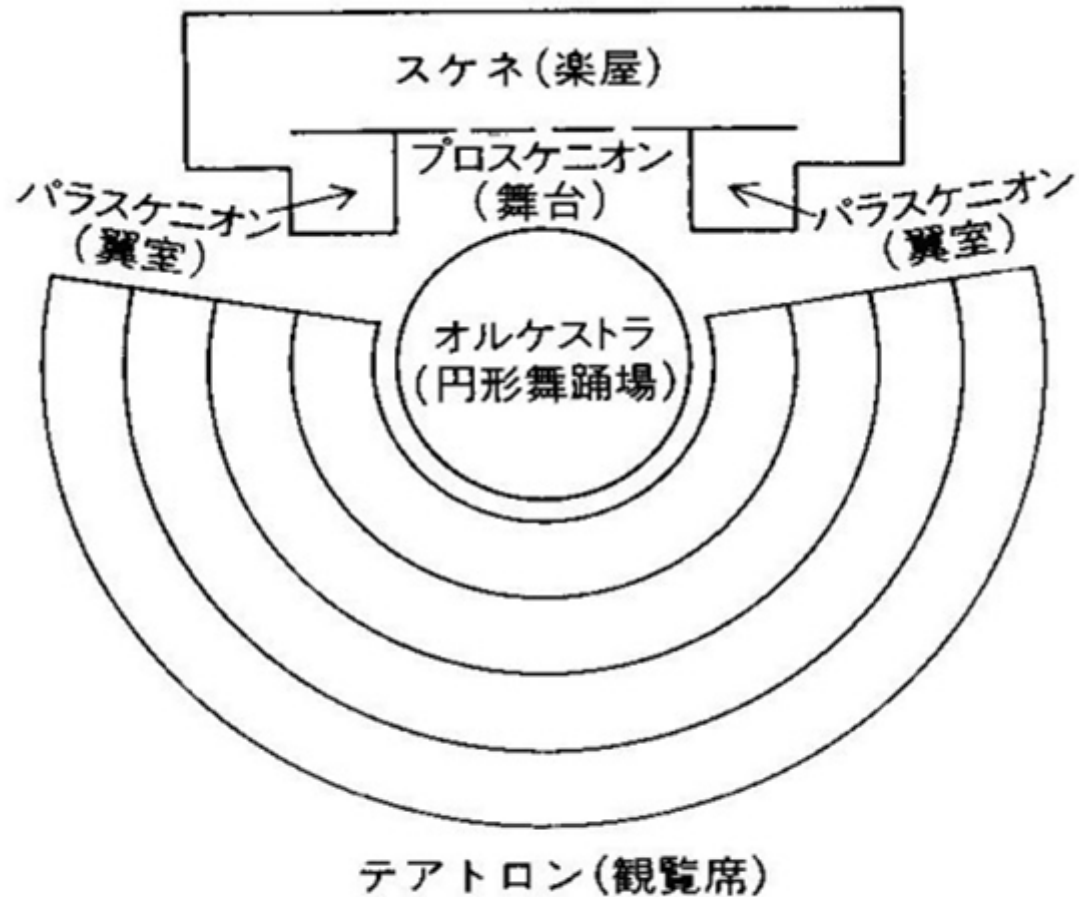


図1 古代ギリシアの劇場。観覧席は山の斜面を用いて作られることが多く、舞台は谷底に位置する。音響面に特に優れた構造となっている。

2-1. 楽譜の歴史

楽譜の歴史

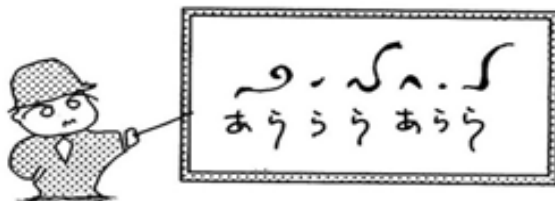


音楽を記述するのは大変です。なにしろ音はすぐ空気に消えてしまいますからね。で、昔の人は考えました。それが「楽譜」です。

●大昔の楽譜●

大昔は、こんな風に歌詞の上に記号をつけて、音の上下や長さを表していました。

(このあたりは、ヨーロッパもアジアもほぼ同じです。)



13世紀ころ、音を四角で表し音の高さを線で表す楽譜らしきものが登場。これを「ネウマ譜」といいます。

(残っているのは、ほとんどが教会の聖歌です。)



この四角が
ネウマです。

●14世紀以降は……●

14～15世紀ころにはかなり複雑になってきますが、音符はまだ四角かひし形です。

(歌だけでなく、楽器の演奏にも適するようにいろいろな改良が加えられているのが分かります。)

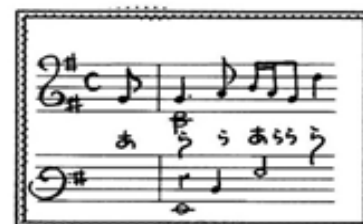


16世紀になると印刷が始まり、楽譜も出版されるようになります。楽器も、鍵盤楽器（ピアノの先祖）が登場して、かなり現在のかたちになります。



17世紀後半ころ、ようやく現在の五線譜と同じようなかたちになります。ト音記号や#、b、休符などもほぼ出そろいます。

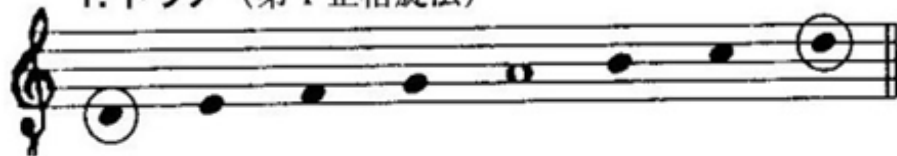
(バッハ大先生が生まれたころのことです。)



2 - 1 . (1) . 教会旋法各種

(正格旋法)

1. ドリア (第1正格旋法)

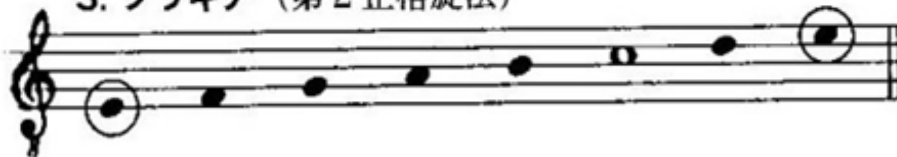


(変格旋法)

2. ヒポドリア (第1変格旋法)



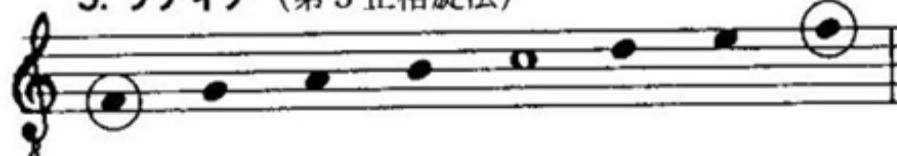
3. フリギア (第2正格旋法)



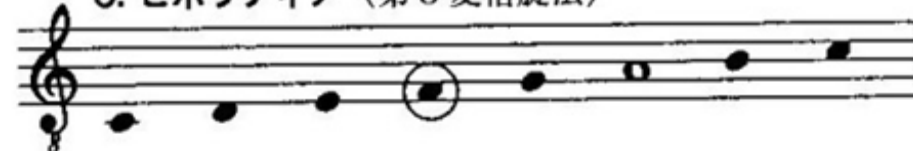
4. ヒポフリギア (第2変格旋法)



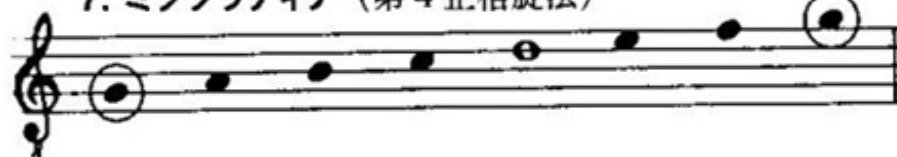
5. リディア (第3正格旋法)



6. ヒポリディア (第3変格旋法)



7. ミクソリディア (第4正格旋法)



8. ヒボミクソリディア (第4変格旋法)



● 終止音 ○ 朗唱音

2-1.(2)グレゴリア聖歌



1. 単旋律
2. 男声の朗誦
3. 教会旋法を統合(中性調?)

ドレミの起源

ドレミファは、グレゴリオ聖歌〈ヨハネ賛歌〉の各行の最初の音が音階になっていることから、歌詞の頭の文字を並べたのが始まりです。

グレゴリオ聖歌〈ヨハネ賛歌〉11世紀ころ

Ut queant laxis Resonare fibris Mira gestorum Famuli tuorum

Solve polluti Labii reatum Sancte Joannes

DoはUtにたいして
ドはUtにたいして

ホトメ?

SiはSancte Joannesの
SjがSiにたいして

2 - 2 . 楽曲の歴史 (1)

ジョスカン作曲 モテット「アヴェ マリア」の冒頭 (対位法)

The image shows a musical score for the beginning of Josquin's motet 'Ave Maria'. It consists of four staves, each representing a different voice part. The text 'A - ve Ma - ri - a, gra - ti -' is written across the staves, with each voice part entering at a different point, creating a polyphonic texture. The first staff starts with 'A - ve', the second with 'Ma - ri - a,', the third with 'A - ve', and the fourth with 'Ma - ri - a,'. The text continues on the fourth staff as 'A - ve Ma -'.

単旋律 ⇒ 多声音楽(ポリフォニー)

単旋律の重なり

言葉が不鮮明, 旋律が把握できない, 終わりが無い

⇒ ホモフォニー

単一旋律をハーモニーで支える

意図した和声を得られる, 旋律線が明瞭, 休止できる

2 - 2 . 楽 曲 の 歴 史 (2) 長調・短調・転調

教会旋法 (中性 ?)

ポリフォニー (多声音楽) (中世からルネッサンス)

ホモフォニー (単一旋律を強調する)

(ルネッサンス以降)

調性 (長・短) の 確 率

(純正律 平均律)

自在な転調可能

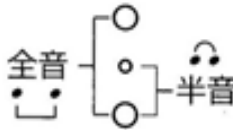
J.S.バッハ: 「24曲の平均律クラヴィーア曲集」

2-2. 楽曲の歴史(3)

音階と旋法

●音階の種類いろいろ●

1オクターヴに5つから7つの音を持つのが「音階」の基本です。全音と半音の組み合わせによって、いろいろな性格の音階があり、それらは「旋法」と呼ばれています。



長調の音階

いわゆる普通のドレミファ。西洋音楽の基本中の基本。



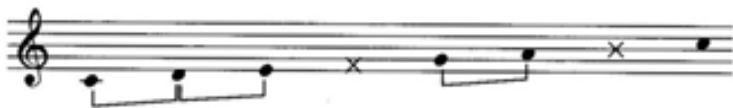
短調の音階

ミとラにbが付いて、ちょっと暗く悲しい感じになる。



5音音階

日本を初めとして民族音楽に多い音階。ファ(4)とシ(7)がないので「4・7抜き」音階などともいう。



教会旋法(例:フリギア)

西洋風ドレミファが確立する前に、聖歌に使われていた音階。このほかドーリア旋法、リディア旋法などがある。



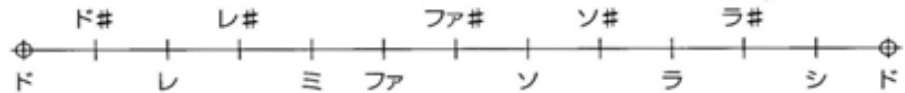
全音音階

音程すべてが「全音」という特殊な音階。ドがどこだか分からない不可思議な響きになる。



12音音階

半音全部を使った究極の音階。調性感ゼロの無重力な響きになる。



要するに、旋法とは1オクターヴ(ドからドまで)の全音と半音の組み合わせが作るスペクトル。



例えば長調なら、



短調は、



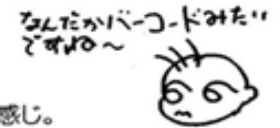
全音階だと、



そして、12音音階は



こんな感じ。



2-3. 楽器の歴史(1) リュート



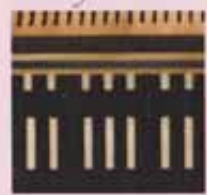
2-3. 楽器の歴史(2)

第5章・鍵盤楽器

Keyboard instruments

Cembalo

Harpsichord



時代を超える雅びな音色

チェンバロ/ハープシコード

楽器の特徴

バロック時代に広く愛された花形楽器です。はっきりした起源は明らかではありませんが、誕生は中世末期。二段鍵盤の楽器が作られるなど大型化され、音色も力強くなるとともにバロック時代の作曲家の創作意欲を刺激していきました。ピアノの登場とともに一時人気を失ったものの、19世紀終わり頃からその雅びな音色の価値が再発見され、20世紀に入ると新たに作品も書かれるようになりました。イタリア・ドイツではチェンバロ、イギリスではハープシコード、フランスではクラヴサンと呼ばれます。

鍵盤

チェンバロの鍵盤は黒鍵に黒鍵、白鍵に白鍵などが使われていますが、白鍵と黒鍵が逆のものも多く見かけます。逆にした理由は、ルイ王朝時代のフランスで、「演奏する人の指がきれいに見えるようにそうした」という説もありますが真偽は不明です。

ナット

弦を支える部分です。これと反対側のブリッジによって弦が支えられています。

チューニングピン

金属製のピンで、弦が巻き付けられています。各弦の音程を合わせる時は、レンチ(チューニング・ハンマー)を使ってこのピンを回します。

ジャック

弦を弾いて音を鳴らすためのフレクトラムが付けられている部分です。

響板

弦の振動をケース全体に伝えて音を響かせるためにブリッジが付けられている板です。ヨーロッパ・アルプス産のエゾマンヤスプルスなどが使われます。

弦

チェンバロは「フレクトラム」という爪で、2本一組や3本一組で張られた鉄の金属製の弦を弾いて音を出します。

ケース(本体)

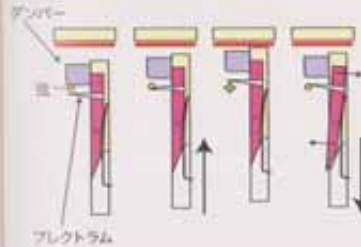
中はほとんど空洞になっています。箱板などにはポプラ、カツラ、アガチスなどの木が、底板にはヒメコマツ、スプルスなどが使われ、外側は装飾が施されているものが多くあります。



チェンバロの装飾

チェンバロは家具でもあり、時代や地方、持ち主の趣味によってさまざまに装飾されました。蓋の内側や響板、ロゼット(響穴)に施された風景画や花などの模様は美術品のようなです。

チェンバロの撥弦のしくみ



図のように「ジャック」と呼ばれる棒状のパーツには「フレクトラム」と呼ばれる爪と、弦をミュートするためのダンパーが付けられていて、ジャックが上に動く時だけフレクトラムが弦を弾く仕組みになっています。なお、以前はフレクトラムには鳥の羽根の根元の部分が使われましたが、現在では人手や管理がむずかしいので、プラスチックで代用される場合が多いです。

ヴァージナル (Virginal)

チェンバロやスピネットと同じ発音構造ですが、足がなく四角形や五角形の箱形で、膝や机の上などに乗せて演奏する小型鍵盤楽器を「ヴァージナル」と呼んでいます。登場したのは15世紀半ばくらいで、据え置き型のチェンバロなどとは違い、ふだんはしまっておいて必要な時だけ出してきて演奏できるというメリットから、庶民的な鍵盤楽器としてヨーロッパの一般家庭で愛用されました。



スピネット (Spinnet)

鍵盤に対して垂直に弦が張られたチェンバロと違い、鍵盤に対して斜めに弦が張られたものを「スピネット」と呼びます。斜めに弦を張ることによって小型かつ安価にすることに成功。16世紀~18世紀にかけては、王侯貴族ばかりでなく一般市民の家庭用鍵盤楽器として流行しました。



京都市楽器博物館蔵

2-3. 楽器の歴史(3)

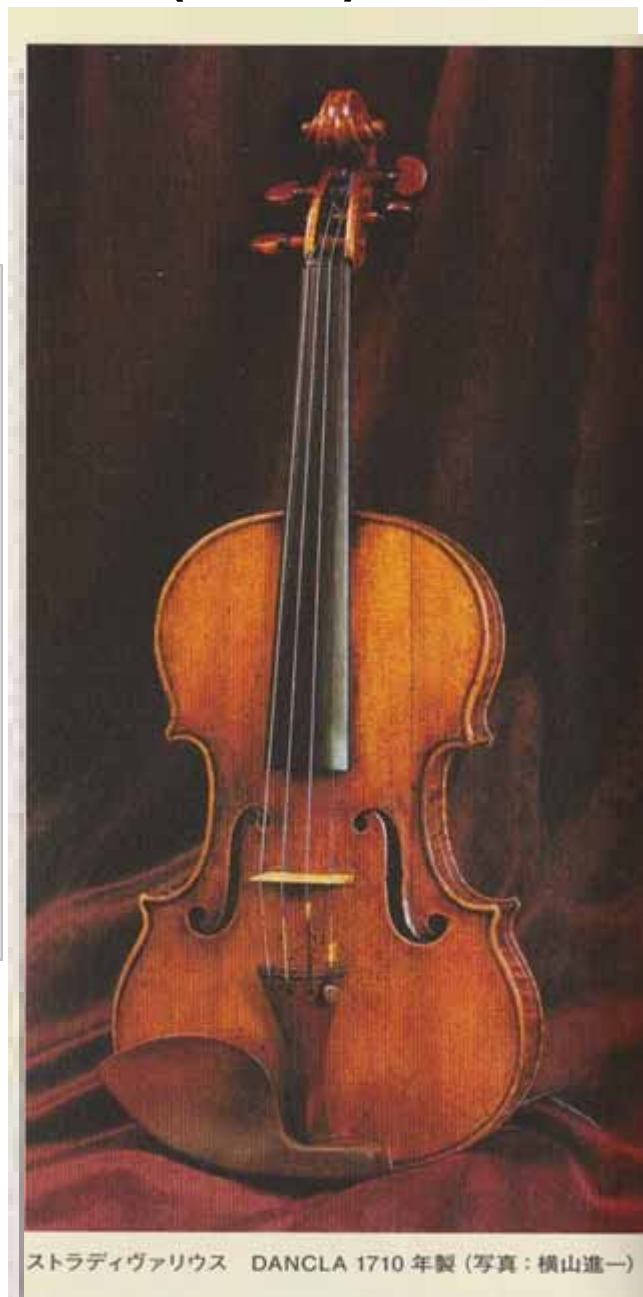
ヴァイオリン

ストラディヴァリウス(1644-1737)

イタリア人

クレモナで活躍

ガスパロ・ベルトロッティ,
アマティ, グアルネリと並ぶ
弦楽器製作の巨匠



ストラディヴァリウス DANCLA 1710年製 (写真: 横山進一)

2-4. 弦楽器の活躍(1) 域

種類と音域

第1章・弦楽器 Stringed instruments

弦楽器の比較

個々の楽器の紹介に入る前に、それぞれの大きさや音域を比較してみましょう。大きさのイメージとしては、指揮者のシルエットを身長170cmと考えてください。また、下の楽譜に付けられた「8va」 という記号は、譜面に書かれている音域よりも、実際は1オクターヴ上(もしくは下)ということを示しています。



マンドリン

全長約 60cm
重量 500g ~ 800g 程度

マンドリンはギターに比べると約半分の大きさで、高音の調音を得意としています。



ヴァイオリン

全長約 60cm
重量 300g ~ 600g 程度

大きさは大人の片腕の長さ程度。実際に持ってみるとその軽さには驚かされます。



ヴィオラ

全長 70cm 前後
重量 600g ~ 800g 程度

見た目はヴァイオリンをひと回り大きくした感じですが、意外と音域は低いのです。



チェロ

全長約 120cm
重量 3kg ~ 4kg 程度

小学校低学年の子供ほどの大きさがあります。高音域はヴィオラとあまり変わりません。



クラシック・ギター

全長 100cm 前後
重量 1.0kg 前後

ギターは、チェロほどではないにしても大きな楽器という印象ですが、実は音域はヴァイオリンと同じなのです。



コントラバス

全長約 170cm ~ 200cm 程度
重量 10kg ~ 11kg 程度

コントラバスの身体は約 180cm、長身の男性くらいです。しかし重さは1歳くらいの子の赤ちゃんの重さなのです。



グラランド・ハーブ

全長約 180cm ~ 200cm 程度
重量 35kg ~ 45kg 程度

グラランド・ハーブはとても大きく重い楽器です。また、6オクターヴ半という音域の広さもほかと比べると断然と高いです。



2-4. 弦楽器の活躍(2) 「運命」交響曲の楽器出現頻度(%)

楽章	Fl.	Ob.	Cl.	Fg.	Hn.	Tp.	Ti.	Vn.I	Vn.II	Vla.	V.C.	C.B.	Pic.	C.Fg.	Tb.
第1	59	63	69	84	61	34	31	86	88	85	82	72			
第2	52	57	64	72	29	27	23	82	81	86	84	79			
第3	33	39	35	62	35	19	31	68	66	76	97	70			
第4	76	85	82	86	81	63	51	91	90	96	89	77	42	73	51
合計	57	63	64	78	56	38	38	82	83	86	87	74	12	21	15

2 - 4 . 弦楽器の活躍(3) 弦楽合奏が本体になる理由

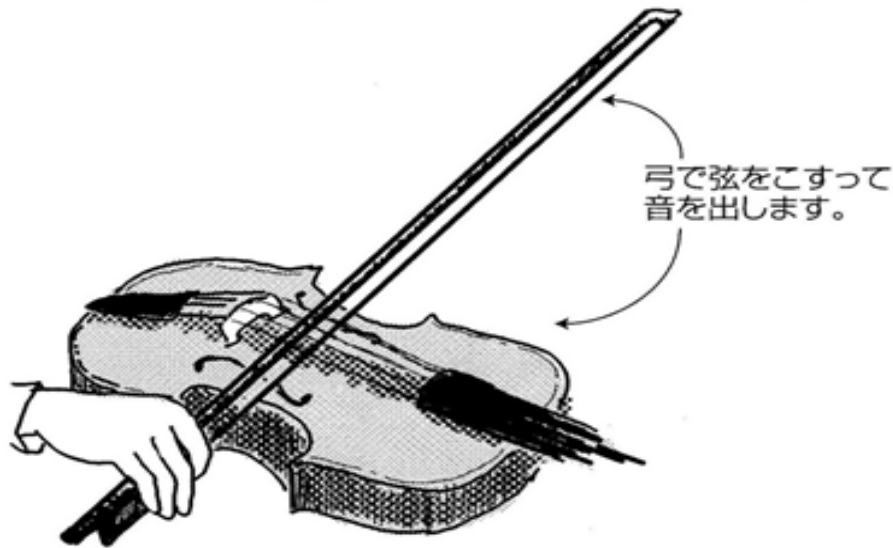
- (1) 広い音域に同質の音色が得られる
- (2) 多彩な奏法を持っている
- (3) 強弱の幅が広い
- (4) 微妙なピッチの違いが豊かな音感を生む
- (5) 人数の増減が容易
- (6) 管楽器に比べて長時間の演奏が可能

2-5. 弦楽器の活躍(4) 法



演奏

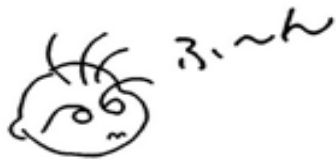
●基本的な弾き方●

ギターやハープなどと違って、ヴァイオリン属の弦楽器は弓で弾きます。



弦1本だと  の音、

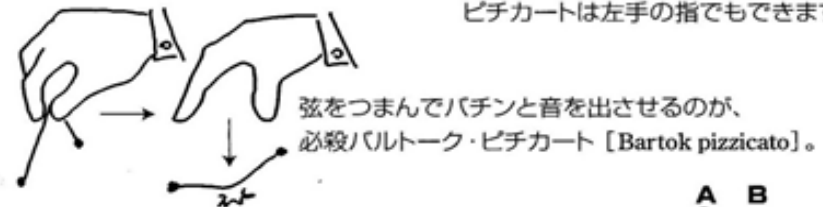
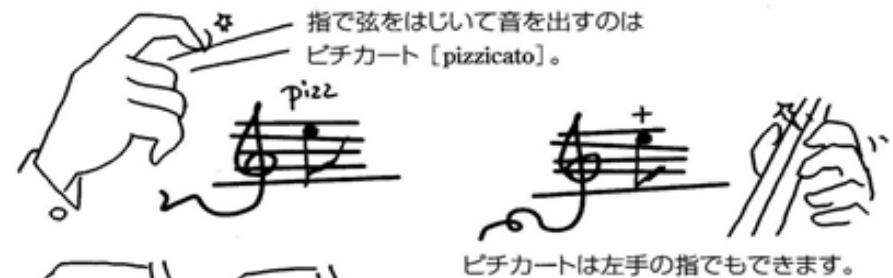
2本弾くと  とか  の音が出ます。



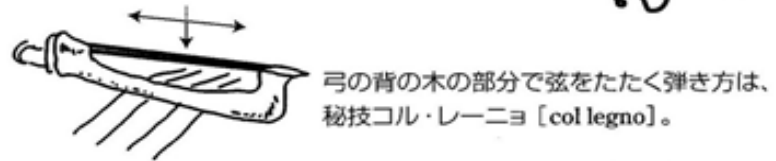
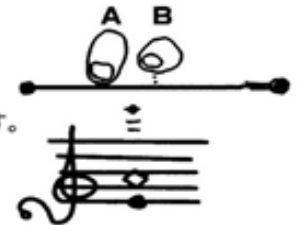
ちなみに、羊の腸(ガット)でできた「弦」を、ウマのシッポの毛でできた「弓」でこするのでよね!

●特殊な弾き方いろいろ●

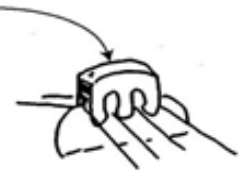
弓でこする以外にも、いろいろな音の出し方があります。



弦のAを押さえてBに軽く触れると位置によって高い音(倍音)が出ます。ハーモニクス [harmonics] です。



駒のところにこういう器具(弱音器)をつけると音が小さく柔らかくなります。コン・ソルディーノ [con sordino] といいます。



3. オーケストラとは(1)

- (1) 弦楽5部 合奏が生みだすハーモニーに
- (2) 木管楽器が彩りを添え
- (3) 金管楽器と
- (4) 打楽器がアクセントを加える

10-2. オーケストラの編成

- (1) 弦楽5部:ヴァイオリン2部, ヴィオラ, セロ, コントラバス
- (2) フルート, オーボエ, クラリネット, ファゴット
- (3) ホルン, トランペット, トロンボーン, チューバ
- (4) ティムパニ, ドラム, 小太鼓, ベル, ピアノ, チェレス
タ...

3. オーケストラとは(2) 木管楽器の種類と音域

第2章・木管楽器 *Woodwind instruments*

木管楽器の比較

フルートはもともと木製でしたし、サクソフォンは金属製ですが、木管楽器の特徴である“リード”と呼ばれる小さな木片を音源として使っているので、特例的に木管楽器に分類されます。定規ほどの大きさのピッコロから、小学校高学年の子供ほどの高さのあるファゴットまで、それぞれの大きさのイメージは、約90cmと想定してある指揮者の上半身のシルエットと比較するとわかっていただけるでしょう。



ピッコロ

全長34cm
重量約200g程度

ピッコロは、演奏時にほぼ両手で隠れてしまうほど小さくて軽い楽器です。また小さい分、音域も高くなります。



アルト・リコーダー

全長45cm～50cm程度
重量150g前後(プラスチック製) / 200g～300g程度(木製)

ソプラノからバスまで各種ありますが、いちばん一般的なのがアルト・リコーダーでしょう。



フルート

全長65cm前後
重量400g～500g程度

長さは大人の伸ばした手のほどですが、直径は金属製で2cm～2.5cm、とても細長く、また比較的音域も狭い楽器です。



オーボエ

全長65cm前後
重量650g～700g程度

フルートよりもひとまわり大きくこつい印象ですが、音域的にはフルートよりも約1オクターヴ高い音が出せます。



クラリネット (B \flat 管)

全長65cm前後
重量700g～800g程度

重さ、大きさともにオーボエとさほど変わりませんが、クラリネットの音域の広さは特筆すべきものがあります。



アルト・サクソフォン

全長70cm前後
重量23kg～2.5kg程度

金属製であるがゆえに重量は圧倒的に重くなります。また音域はイングリッシュホルンとほぼ同じです。



イングリッシュホルン

全長約80cm
重量700g～800g程度

見た目からは低い音域の楽器というイメージがありますが、実際には最低音はクラリネットとほぼ変わらないのです。



ファゴット

全長約140cm
重量約5kg

木管楽器グループの中では一番振って大きく、また重い楽器です。その分、音域も低くなっています。

ピッコロ



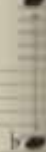
アルト・リコーダー



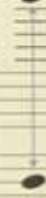
フルート



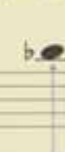
オーボエ



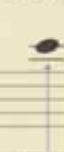
クラリネット (B \flat 管)



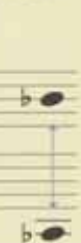
アルト・サクソフォン



イングリッシュホルン



ファゴット



3. オーケストラとは (3) 金管楽器の種類と音域

第3章・金管楽器 Brass instruments

金管楽器の比較

木管楽器と金管楽器の違いは、木管楽器のようにリードの振動が音源になるのではなく、金管楽器は吹く人の唇の振動が音源として管を伝わって増幅される点です。素材はほとんどのものが真鍮で、高級なものはそれに金や銀のメッキが施されています。従って重量面では、弦楽器や木管楽器に比べるとがぜん重くなります。ただし、全体的な作りとしては、直線に伸ばすと何mにもなる金属管を巻き込むような形に曲げてありますから、コントラバスのように大きな楽器にはなりません。



ホルン (フルダブル)

全長 40cm 前後
重量 2.5kg ~ 2.8kg 程度
ベル径 30cm 前後

唇が着かれた部分の大きさが 40cm 程度なので、想像よりも小さな印象を受けますが、意外と音域は広い楽器です。

トランペット (B♭管)

全長 50cm ~ 55cm 程度
重量約 1kg ~ 1.2kg 程度
ベル径 12cm 前後

標準的な B♭管でも約 1kg 以上です。すっきりとした重さを感じます。また、音域も 3 オクターブ弱と狭くなります。

ユーフォニアム (B♭管)

全長約 70cm 重量 4.5kg 前後
ベル径 30cm 前後

全長約 70cm で重量は 5kg 近く、その大きさや重さは、生まれて数ヶ月の赤ちゃんを抱えて演奏するイメージです。



チューバ (C管)

全長 80cm ~ 100cm 程度
重量 10kg ~ 15kg 程度
ベル径 30cm ~ 50cm 程度

実物のチューバは、男性の上半身ほどの大きさがある楽器です。しかし、音域的にはその外観ほどは低い音は出ません。



トロンボーン (テナー)

全長 130cm 前後
スライドを伸ばすと 500cm 程度
重量 3.5kg 前後
ベル径約 20cm 前後

いろいろな種類がありますが、標準的なテナー・トロンボーンでスライドを最大に伸ばすと 5m 近くになります。とにかく長い楽器です。



3. オーケストラとは(4)打楽器の種類と音域

第6章・打楽器 Percussion instruments

打楽器の比較

打楽器類はどちらかといえばリズム楽器で、あまりメロディーを演奏しないイメージですが、音程を変えられるティンパニや、マリンバほかの鍵盤打楽器と呼ばれるグループのものには音域が存在します。鍵盤打楽器は鍵盤楽器と同じく、基本的には鍵盤の数=音域になりますから、見た目でその音域を想像できるはずです。



グロッケンシュピール

高さ約 8cm ~ 約 15cm ※スタンドはなしケースを含む
 奥行き約 40cm ~ 約 60cm ※ケースを含む
 幅約 60cm ~ 約 100cm ※ケースを含む
 重さ約 8kg ~ 約 15kg ※スタンドはなしケースを含む
 グロッケンシュピールはとても高音域の楽器です。譜面の表記はほかの楽器と合わせるために、実音ではなく全体に1オクターブ下げて表記してあります。

ティンパニ

高さ約 80cm ~ 約 100cm
 幅 20 インチタイプ (直径約 50cm) = 約 65cm
 ~ 32 インチタイプ (直径約 80cm) = 約 100cm
 重さ 20 インチタイプ (直径約 50cm) = 約 35kg
 ~ 32 インチタイプ (直径約 80cm) = 約 50kg
 ティンパニは 20 インチから 32 インチまで 5 種類のサイズがあり、それぞれに音域が違います。人によっては 32 インチ ~ 23 (24) インチの 4 台で演奏する場合があります。



ヴィブラフォン

高さ約 90cm ~ 約 100cm
 ※モデルによっては調整可能
 奥行き約 60cm ~ 約 90cm
 幅約 130cm ~ 約 180cm
 重さ約 35kg ~ 約 60kg
 ヴィブラフォンはマリンバに比べるとひと回り小さい楽器で、音域もマリンバよりも狭い3オクターブが標準になっています。

マリンバ

高さ約 80cm ~ 約 100cm
 ※モデルによっては調整可能
 奥行き約 80cm ~ 約 100cm
 幅約 180cm ~ 約 270cm
 重さ約 40kg ~ 約 100kg
 マリンバには音域が4オクターブのモデルと5オクターブのモデルがありますが、5オクターブのモデルは幅が3m近くにもなります。

チューブラー・ベル

高さ約 160cm ~ 約 180cm
 奥行き約 60cm ~ 約 70cm
 幅約 80cm ~ 約 90cm
 重さ約 60kg ~ 約 90kg
 チューブラー・ベルの標準的な音域は1オクターブ半で、幅も男性の真横の届くくらい。しかし、全体が金属なので見た目よりも重量があります。

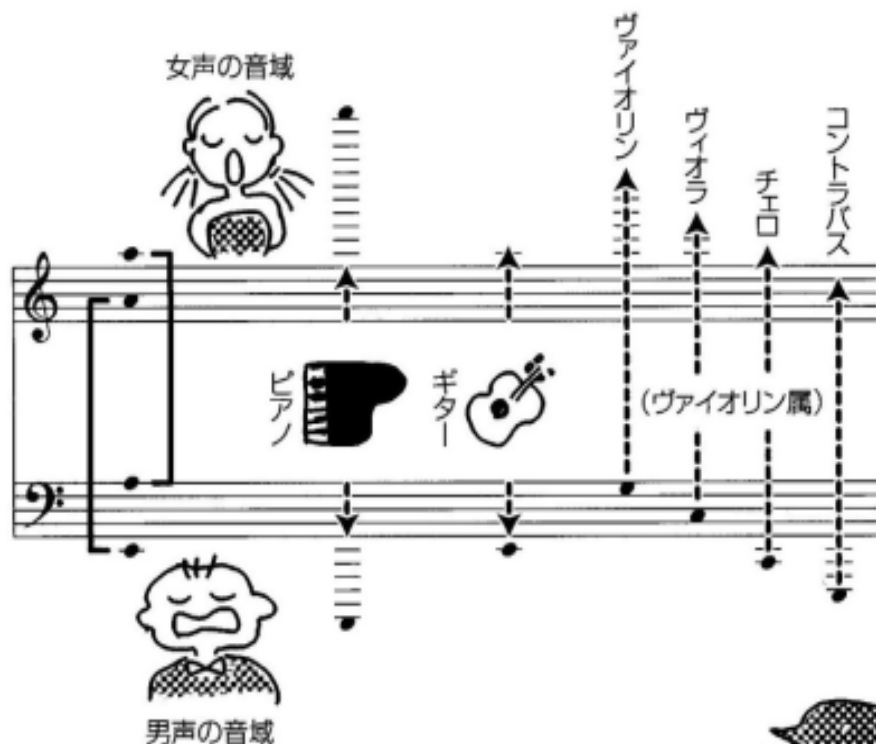


3. オーケストラとは(5) 楽器の音域

ピアノが最も広い音域をもつ弦楽器の上限はほぼ無制限

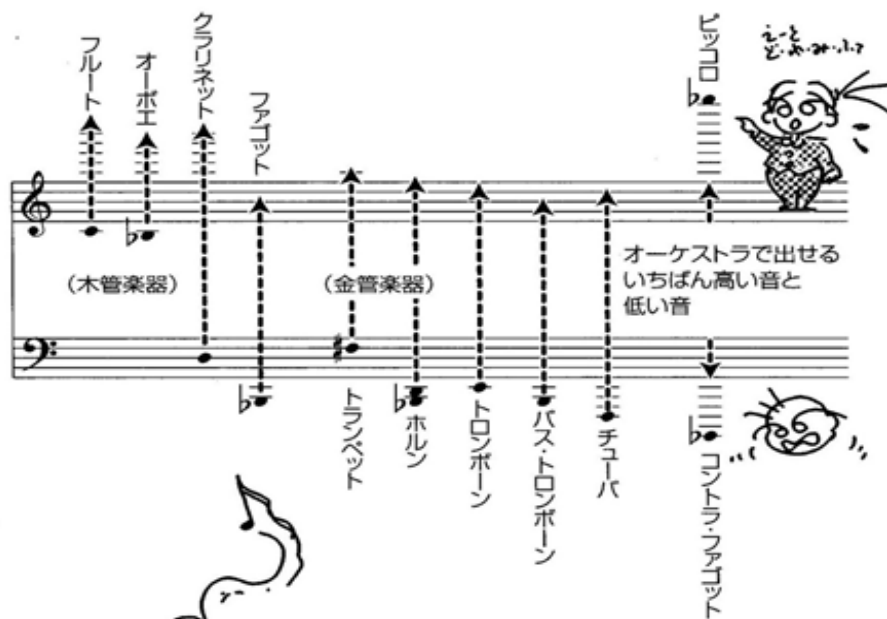
●音域いろいろ●

楽器の出せる「いちばん低い音」から「いちばん高い音」までを「音域」といいます。もちろん、声にもあります。



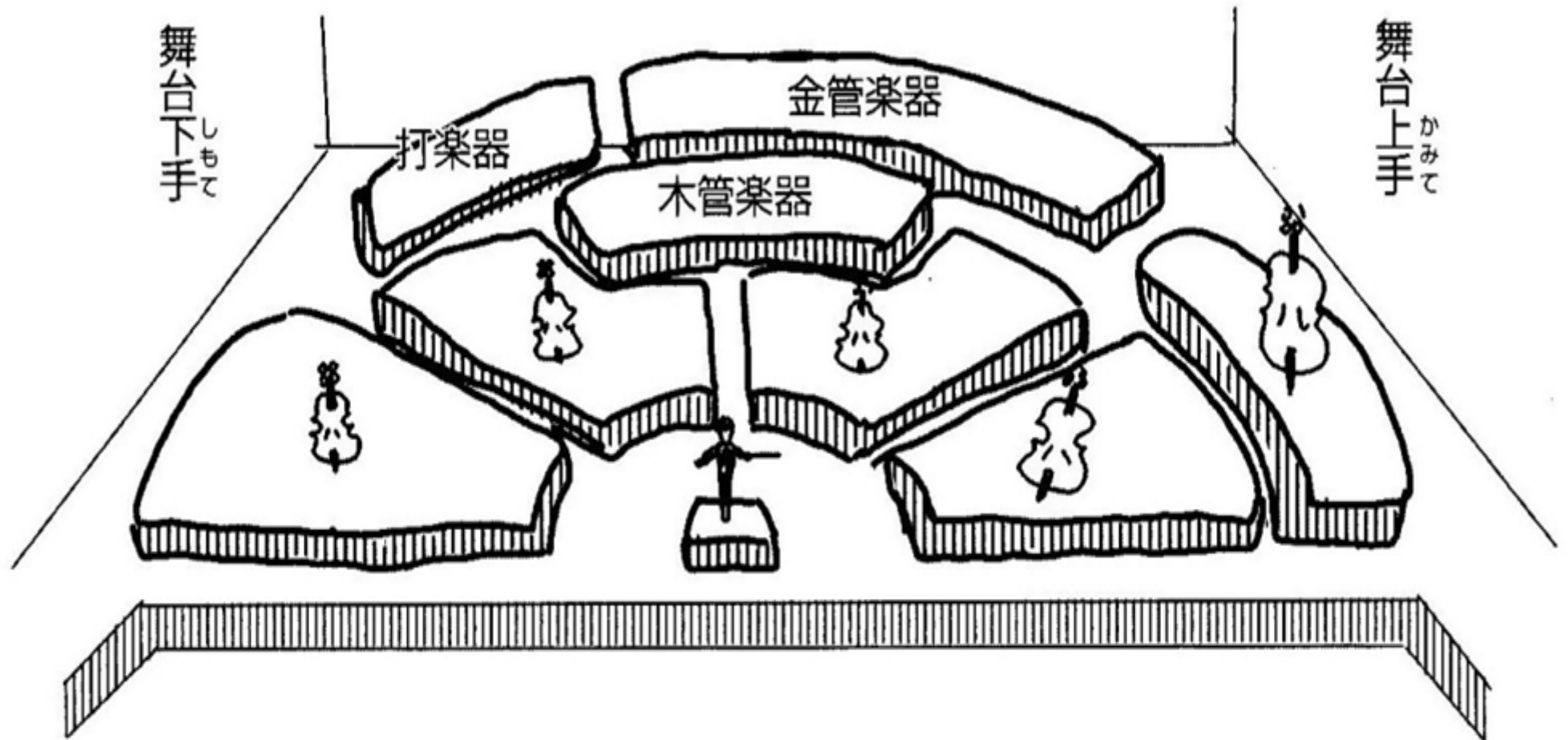
●続・音域いろいろ●

あんまり厳密ではありませんが、こんな感じということで。



管楽器は練習すれば高い音が出ますが、管の長さより低い音は出ません。無理するのはやめましょう。

3. オーケストラとは(6) オーケストラ の配置



4. 指揮者 (1)

100人近い熟練の演奏者を
指揮棒一本で自在に操り
作曲家の心血を注いだ楽譜を
作曲家の思い描いた音に変換して
聴衆に伝える仕事

1. 一度はやってみたいカッコイイ職業
2. オーケストラの中央に立ち、指揮棒を振りまわし
3. 演奏者の出す音をまとめる役
4. 常に演奏者の批判に曝されているから
5. その楽器で一家言もつ演奏者を納得・尊敬させる理論をもち
6. 適切な指示を与えられる優れた心理学者
7. オーケストラと作曲家と聴衆に挟まれた中間管理職

4. 指揮者 (2)

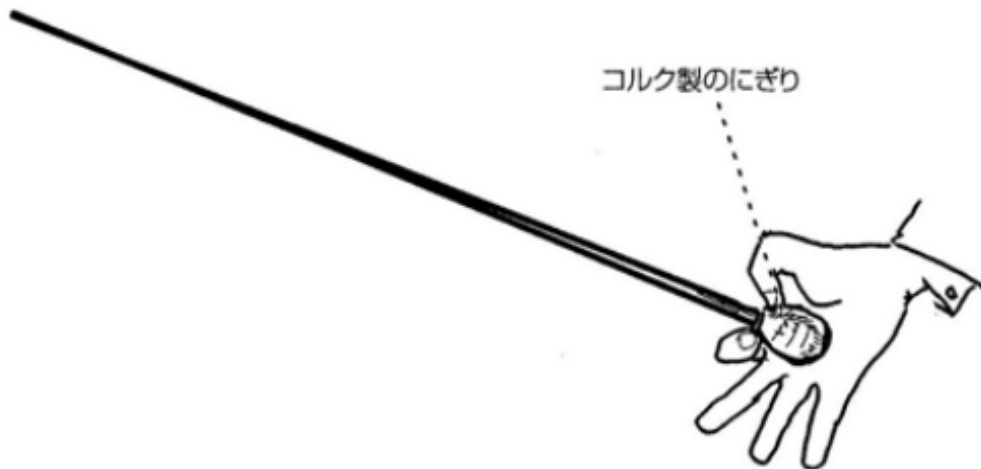
指揮のあれこれ



指揮者は、指揮棒と全身を使ってオーケストラの演奏すべてをコントロールします。音楽に合わせて棒を振り回しているわけではありません。

●これが指揮棒!●

指揮者がふつう振り回しているのはこういう棒です。
指揮者は、この棒と両手のアクションとそして顔や目玉や表情や全身のしぐさでオーケストラを自由自在にコントロールします (たぶん)。



●指揮棒の振り方①●

じつをいうと、指揮には「絶対こうしなくてははいけない」という振り方はありません。どういう音楽にしたいか、がオーケストラに伝わりさえすれば、指揮棒なしでもかまいませんし、指揮台の上で踊りを踊ってもかまわないのです (たぶん)。



さあ 始めるぞ。静かにしろ!
……のポーズ



もっとデカイ音出しやがれ!
……のポーズ



今度は小さい音だ。この!
……のポーズ



もっと歌え 歌うんだ!
……のポーズ



そら、そこで音を出せ。おまえだ!
……のポーズ



い〜ぞ! そのまま行っちゃまえ!
……のポーズ



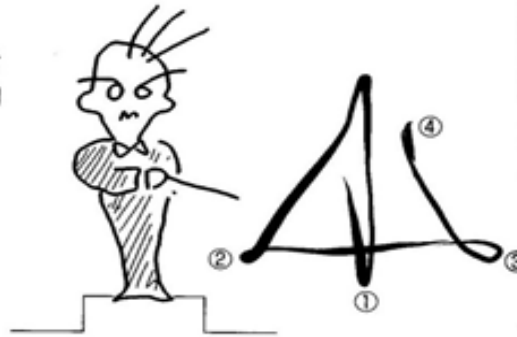
終わったぞ。拍手しろ!
……のポーズ



4. 指揮者 (3)

●指揮棒の振り方②●

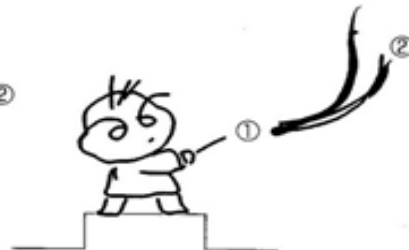
基本的にはこのような図形を空中に描いて、1・2・3・4の拍子を演奏者たちに伝えます。



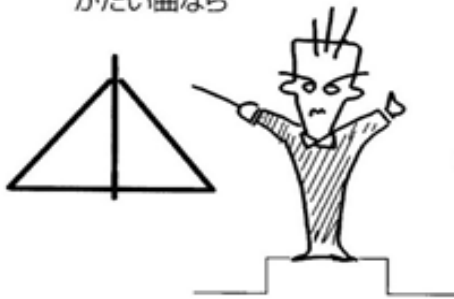
3拍子ならこう!



2拍子はこんなん?



かたい曲なら



やわらかい曲なら



……と振り分けるわけです

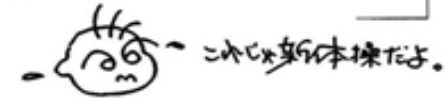
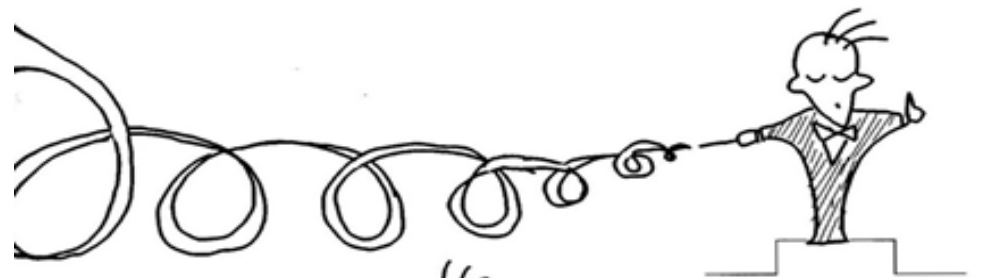
クラシックには4拍子の曲がたくさんありますが、年中4つ振っているばかりでは芸がない。そこで……



とか



とか



……とかいろいろやってヒマをつぶすわけですね。



※おっと、指揮棒で人を刺してはいけません。

4. 指揮者 (4)

●指揮者むかしむかし……●

むかしの指揮者は棒で床をつついて拍子をとっていたのですが……、



足を突き刺して死んでしまった人が出たため (ホント)、中止になり……、



素手でやるようになりましたとさ……。



とさ… じゃな… たさ



そもそも昔は、作曲家が指揮をやるものと決まっていた……。

細い棒を指揮に使うようになったのはメンデルスゾーンあたりから (たぶん)。



それ以前は指揮しかやらない、という専門の人はいませんでした。

今でもピアノを弾きながら指揮する人もいますけど……。



最初の専門的指揮者はアルトゥール・ニキシュといわれています。

大作曲家ワーグナーの弟子で、ベルリン・フィルの常任指揮者にもなった人です。



へ～指揮者って昔から棒が細くてたけなかつたんだあ



5. 作曲家 (1)

ヴァイナルティ Antonino

- 1 7 0 3 司祭ピエタ養育院のヴァイオリン教師
V 孤児を集めたオーケストラを指導 (1678 - 1741)
- 1 7 1 1 協奏曲集「調和の幻想」Op. 3 が出版され名声
を得た
- 1 7 1 6 - 17 4 0 合奏長、毎週開かれるコンサートのため作
曲
- 1 7 2 5 Vn. 協奏曲集「和声と創意への試み」Op. 8
(四季を含む)
で人気頂点に達する。
500 曲余の協奏曲、70 曲余のソナタ、約45 曲のオ
ペラ
- 1 7 4 0 職を辞し、行方不明。
- 1 7 4 1 ウィーンの貧民墓地に埋葬された、と2世紀後に判
明

5 . 作曲家(2)

バッハ Johann Sebastian
Bach (1685 - 1750)

1703 - 08 アルンシュタット/ミュ-ハウゼン時代・・・教会オルガニスト
(1705) ブクステフ-テの演奏を聴きに200マイル歩いてリュ-ベックまで

1708 - 17 ヴァイマル時代・・・宮廷礼拝堂オルガニスト(後楽士長)

1717 - 23 ケーテン時代・・・宮廷楽長(世俗的器楽曲)
平均律クラヴィ-ア曲集

ブランデンブルグ協奏曲, 無伴奏Vnソナタ, セロソナタ

1723 - 50 ライプツィク時代・・・聖ト-マス教会カントル(合唱長)
マタイ受難曲

C . P . E . ハッハ(1714 - 88) : ハンブルグ主要教会音楽監督, 世俗的成功

J . C . ハッハ(1735 - 82) : 英国王室付音楽教師, ハッハ = ア-ヘル・コンサート

5 . 作曲家 (3)

ハイドンとエステルハージ家の契約

- 1 . 使用人・職人・・・白靴下の着用 (雇い主との身分差を示す)
- 2 . 雇い主の望む曲を作曲し、他者への供与は禁止 (著作権なし)
- 3 . 雇い主以外からの依頼に対しては許可が必要
- 4 . 楽団員を指導・管理し、楽団員の争いを調停し、楽器を管理する
- 5 . 召使たちと同じ食事をとることができる

5 . 作曲家 (4)

ハイドン Franz Joseph

- 1 7 4 0 (8 歳) シュテファン大聖堂 聖歌隊(ウイーンに住む)
1 7 4 9 (17 歳) 声変わりのため辞職 (Sym . 8 2 - 8 7 番)
1 7 5 9 (27 歳) モルツィ伯(ボヘミア)の楽長
1 7 6 1 (29 歳) エステルハージ家(ハンガリー西部の大貴族)副楽長
小オーケストラを使う便宜, 勤続中に Sym . 8 2 - 8 7 番
(パリ等)
1 7 7 2 (40 歳) Sym . 4 5 番「告別」
1 7 8 1 (49 歳) モーツァルトと親交, S . Q . 3 7 - 4 2 番(ロシ
ヤ四重奏曲)
1 7 9 0 (58 歳) ロンドンへ, Sym . 9 3 - 9 8 番(ザロモンセッ
ト)、S Q 「ひばり」
1 7 9 1 (59 歳) 帰国
1 7 9 4 (62 歳) ロンドン再訪, Sym . 9 9 , 1 0 0 「軍隊」
, 1 0 1 「時計」, 1 0 4 「ロンドン」
1 7 9 5 (63 歳) エステルハージ家, オラトリオ「四季」「天地創造」,
S . Q . 「皇帝」等
1 8 0 4 (72 歳) エステルハージ家辞職
1 8 0 9 (77 歳) ナポレオンのウイーン攻撃で着弾のさなか没

作曲家 (5)

- 1 7 7 3 (1 7 歳) S y m . 2 番 (ト短調)
- 1 7 7 7 (2 1 歳) f P g . 9 番 K A 7 1 (シエノム)
- 1 7 7 8 (2 2 歳) F l . / H p . C . 6 番 (母の死、9 1)
- F M C O 1 Z , a 番 , t s y m (1 3 7 5 6 7 9 1)
- 1 7 7 9 (2 3 歳) V n . / V l a . 合奏 C . K 3 6 4 ,
2 P i a n o C . K 3 6 5
- 1 7 8 1 (2 5 歳) 歌劇「イドメネオ」, 「後宮からの誘拐」, **ハイドンと親交**,
- 1 7 8 3 (2 7 歳) S y m . 3 6 番「リツツ」, P . C . 1 2 , 1 4 番 ,
H n . C . 2 , 3 番 ,
- 1 7 8 5 (2 9 歳) P . C . 2 0 , 2 1 , 2 2 番 , 6 曲の S . Q . を
ハイドンに献呈
- 1 7 8 6 (3 0 歳) 歌劇「フィガロの結婚」, S y m . 3 8 番「フラハ」,
P . C . 2 3 , 2 4 , 2 5 番
- 1 7 8 7 (3 1 歳) 歌劇「ドンジョヴァンニ」, セレナーテ「アイネ・クライネ・ナハトム
ジーク」
- 1 7 8 8 (3 2 歳) S y m . 3 9 , 4 0 番 , S y m . 4 1 番「ジュピター
-」, P . C . 「戴冠式」
- 1 7 8 9 (3 3 歳) S . Q . 2 2 , 2 3 番 K 5 8 9 , 5 9 0
- 1 7 9 0 (3 4 歳) 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」, S . Q u i . 5 番
K 5 9 3 ,

5 . 作曲家 (6)

L u d w i g v a n

- 1 7 9 8 (2 5 歳) P . C . 1 番 , V . S . 「クワイエ
ル」, P . S . 「ワルトシュタイン」
- 1 8 0 0 (3 0 歳) 第 1 交響曲 (2 7)
- 1 8 0 3 (3 3 歳) 第 2 交響曲 , P . C . 3 番 , V . S . 「クワイエ
ル」, P . S . 「ワルトシュタイン」
- 1 8 0 5 (3 5 歳) 第 3 交響曲「英雄」, 歌劇「フィデリオ」(第 1 稿),
P . S . 「熱情」
- 1 8 0 6 (3 6 歳) V . C . , 歌劇「フィデリオ」(第 2 稿), S . Q .
「ラスモフスキー-1, 2 番」
- 1 8 0 7 (3 7 歳) 第 4 交響曲, P , C . 4 番, ミサ曲(ハ長調),
P . C . (V . C . 援用版)
- 1 8 0 8 (3 8 歳) 第 5 交響曲, C . S . 3 番, P . T r i o 「幽
霊」
- 1 8 0 8 (3 8 歳) 第 6 交響曲「田園」
- 1 8 0 9 (3 9 歳) P , C . 5 番「皇帝」, P . S . 「テレゼ」「告別」,
- 1 8 1 3 (4 3 歳) 第 7 交響曲, 「ウエリントンの勝利」(戦争交響曲)
- 1 8 1 4 (4 4 歳) 第 8 交響曲, 歌劇「フィデリオ」(第 3 稿),
- 1 8 2 2 (5 2 歳) ミサ・ソレムニス
- 1 8 2 4 (5 4 歳) 第 9 交響曲「合唱付」

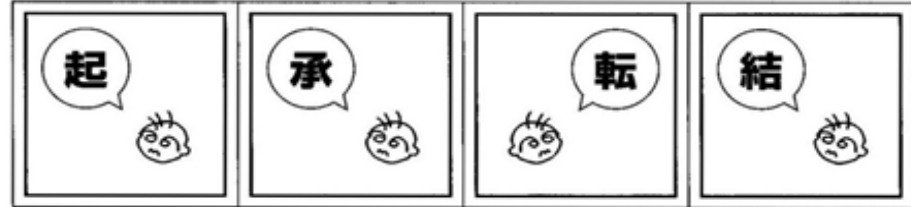
6. オーケストラ楽器編成

西暦	作曲家	作 品	弦	Fl.	Ob.	Cl.	Fg.	Hn.	Tp.	Tb.	Ti.	他
1772	ハイドン	交響曲「告別」	4	—	2	—	1	2	—	—	—	—
1782	モーツァルト	交響曲「ハフナー」	4	2	2	2	2	2	2	—	1	—
1783	モーツァルト	交響曲「リンツ」	4	—	2	—	2	2	2	—	1	—
1786	モーツァルト	交響曲「プラハ」	4	2	2	—	2	2	2	—	1	—
1788	モーツァルト	交響曲39番	4	2	—	2	2	2	2	—	—	—
1794	ハイドン	交響曲「軍隊」	4	1	2	2	2	2	2	—	1	—
1795	ベートーヴェン	ピアノ協奏曲1番	4	2	2	2	2	2	2	—	1	—
1800	ベートーヴェン	交響曲1番	4	2	2	2	2	2	2	—	1	—
1805	ベートーヴェン	交響曲「英雄」	5	2	2	2	2	3	2	—	1	—
1808	ベートーヴェン	交響曲「運命」	5	3	2	2	3	2	2	3	1	—
1822	ベートーヴェン	ミサ・ソレムニス	5	2	2	2	3	4	2	3	1	Org. Cor.
1824	ベートーヴェン	交響曲「合唱付」	5	3	2	2	3	4	2	3	1	打3, Cor.
1830	ベルリオーズ	幻想交響曲	7	2	2	2	4	4	4	5	2	Hp.4, 打3
1912	ラヴェル	組曲ダフニスとクロエ	10	4	3	4	4	4	3	4	1	Hp.2, 打6
1943	バルトーク	オケの協奏曲	8	3	3	3	3	4	3	4	1	Hp.2, 打3

7. 交響曲の構成(1)

第1楽章:アレグロ

ゆっくりした序奏の後, 速い
主部が多い. 重要な主張.



第2楽章:アンダンテ

くつろいだ穏やかな曲
憩いのひととき.



第3楽章:スケルツォ

気分転換, 諧謔的
メヌエットから発展

第4楽章:フィナーレ

終曲, 壮麗な結末

基本的に、交響曲や弦楽四重奏曲などは4楽章、コンチェルト（協奏曲）やソナタなどは3楽章です。ただし、例外として単一楽章のものや、多楽章（5楽章以上）のものなどもあります。7楽章とか12楽章なんていうのもアリですが、でも、あんまり多すぎると数えられませんか。



7 . 交響曲の構成(2) 曲」

「幻想交響

恋に深く絶望しアヘンを吸った、豊かな想像力を備えた
ある芸術家の生涯の出来事

第1楽章：夢・情熱

ラルゴ・アレグロ・アシタート・エ・アパッショナート・アッサイ

第2楽章：舞踏会

ワルツ アレグロ・ノン・トロツホ

第3楽章：野の風景

アダージオ

第4楽章：断頭台への行進

アレグレット・ノン・トロツホ

第5楽章：魔女の夜宴の夢

ラルゲット・アレグロ・アッサイ

ミサの式次第

通常文	固有文	
キリエ グロリア	入祭唱	オラトリオ 大カンタータの一種、典礼劇 例:「メサイア」
クレド	集禱文 使徒書簡朗読 昇階唱 アレルヤ唱 続唱 福音書朗読	カンタータ 物語風の楽曲 演奏会用あるいは教会用の曲 劇の動作はない
序唱 サンクトゥス ミサ典文 主禱文 アニュス・デイ	奉献唱 密唱	レクイエム 死者のためのミサ曲(主にグレゴリア聖歌) 通常のミサ曲
イテ・ミサ・エスト	聖体拝領唱 聖体拝領後の祈り	

25. 作曲家一覧

シューベルト(1797-1828)

シューマン(1810-1856)

ベルリオーズ(1803-1869)

ブラームス(1833-1897)

ヴァーグナー(1813-1883)

J.シュトラウス(1825-1899) (1804-1849)

ドビュッシー(1862-1918)

ラヴェル(1875-1937)

ビゼー(1838-1875)

R.シュトラウス(1864-1949)

チャイコフスキー(1840-1893)

ストラヴィンスキー(1882-1971)

武満 徹(1930-1996)